

ほし組☆ミすくわくプログラム 7月、8月の記録

7月10日 カマキリを捕まえ、ほし組に連れてくる。

- ・かっこいい！
 - ・「わあ〜」と、目をキラキラさせる
 - ・近くで見たい、触りたい
 - ・飼いたい、お世話したい
- ※用意したもの→虫かご



◎子供の様子

興味のある子は、我先にと虫かごへ見に行く。ちょっと怖いなど、離れたところから様子見の子も。カマキリについて、見たことがある！触ったことがある！という子たちは、知っていることを夢中で話す。

◎観察

- ・おしりがあがってるね
- ・動かないね
- ・怖いのかな？
- ・おなかすいたかな？



↓

図鑑やインターネットを使い、カマキリの飼育環境を調べる。

園庭や畑で、葉や枝、食べるものを探しバッタを数匹捕まえ虫かごへ。

↓

- ・本当に食べるのかな
- ・カマキリゆらゆらしてる、うるさいのかな、
- ・バッタ捕まえた！食べてる…！！



7月11日～15日

主に朝活動と夕方にカマキリのお世話をする。



◎お世話中の子供たちの様子、反応

- ・おしりにうんち付いてる！
 - ・★どんなうんち？→まるいね、臭くないね、小さいね、うんちついたまま歩いてるね。と、たくさんの発見。
 - ・カマキリさん、バッタと遊んでるね。→★よく見てごらん？
- あー！食べてる…と衝撃を受ける子や、こうやって食べるんだね、ガシッと捕まえてるね、と近くで観察。

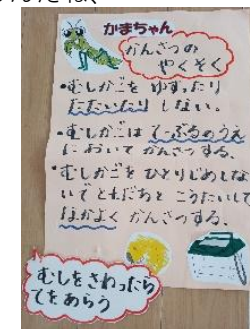
夕方に、園の畑でカマキリの餌を数名で取りに行く。

→バッタを3～5匹捕まえ、与える

☆ほし組みんなで話し合い☆

カマキリの飼育について、お約束の話をする

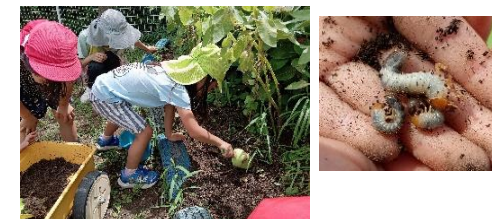
どうしたら、カマキリが安心してすごせるかなど、クラスのみんで話し合いをした。「びっくりさせない」、「触るときは先生と」、「優しくする」など、カマキリの為に一生懸命考える姿が見られた。



7月17日～21日 園庭の花壇で幼虫を発見。虫かごに入れクラスへ。

↓

- ・カブトムシの幼虫かな？
- ・長くなった(土の中では丸まっていた)
- ・白と黒と、顔は茶色だね
- ・土の上に移すと・・・潜るのはや！！



★どうして潜ったのかな→明るいんじゃない？寒いのかな？うるさい。寂しいのかな、まぶしいんだ！

幼虫に興味がある子は、一緒に図鑑と使ってお世話の仕方や、何の幼虫なのかを調べた。

★ミーティング★

- ・カブトムシの飼い方や、お世話の仕方、興味が薄い子にどうやって関わりを持ってもらえるような声掛けを増やす。
- 飼育キットがないため、幼虫が食べるものや、飼育環境を調べる。

※用意したもの→深めの虫かご、イネ科の雑草の根、霧吹き

◎翌日の観察(幼虫)

幼虫の餌となる草を虫かごに植える(にじ組スマホで撮影)

- ・幼虫どこだろ
- ・食べるかな？

下から虫かごをのぞいてみると

- ・いた！すごく潜ってるね。

★どうしてこんな深く潜ったのかな？→冷たくて気持ちがいいのかな、涼しいのかな？土の中は暖かいんだよ！ごはん探してるのかな

◎観察(カマキリ)

- ・お尻が上がってる、目が大きいね、三角と四角と丸だね。

★足はいくつあるかな→カマキリを観察して数える子と、図鑑を取り

にいく子に分かれる。図鑑の子は、「6本だね。ほんとな、カマキリ見に行こう」→結果、6本とわかる。

(図鑑で知り、実際に見ることで本当の姿として捉え、自身の興味関心を深めていくことを楽しんでいる様子が見られた。)



7月21日、カマキリが脱皮をする。

- ・わ～ふわふわしてる、柔らかい、カマキリの形してるね、班ごとに回して観察→直接触ったり、持ち上げてみたりする。
- お昼ご飯の前に、カマキリの脱皮の絵本を読んで、理解を深める。

↓保護者の反応

抜け殻の展示を見て、「カマキリって脱皮するんですか?!」と驚いた様子。「この虫かごには、何が入ってるの?」「カマキリがバッタ食べるの?!」「カマキリ、大きくなったね」など親子の会話が見られた。

7月22日～31日

22日、カブトムシを捕まえ、観察のためにクラスへ。興味のある子が多く、年長さんも一緒に観察。

- ・かっこいい、触りたい、すごく元気だね
- ・虫かごが小さいとストレスになるんだよ

★触ってみるとどんな感じ?→かたい、足が長い

(カブトムシはすでに飼っている子が多く、知っている知識をお友達や先生に夢中でお話して、教えてくれた。)



◎観察(カマキリ)

- ・足が長くなったね、
- ・またゆらゆらしてるね、★なんでかな?→踊ってるのかな、待ってるのかも。調べてみよう!

↓

図鑑で調べたところ、狩りをするときに揺れることを発見。

- ・おなかすいてたのか、バッタいるよ～とカマキリに声掛け。



No.3

◎観察(カブトムシ)

★おなか、どんな風になってる？

- ・下から覗き込み、足が長いよ
- ・ふさふさがある！茶色の！
- ・本当だ、柔らかいかな、あったかいかな
- ・髪の毛だよ、守ってる

(いろんな想像を膨らませながら、思いついた順にどんどん言葉が出る)



その後、数人で各虫かごに、霧吹きや、水を上げるなどお世話をする

7月25日～31日

用務員の青木さんが、クワガタムシを見せてくれました。

- ・思ったより小さいね、(カブトムシと比較して)
 - ・体が平べったいね。
 - ・怒ってる。★どうしてそう思った？→大あごを大きく開き、顔を上げて
- ている様子から。



◎幼虫の土交換

子供たちと、バケツやビニール袋を持って、花壇へ。

新聞紙の上で作業。(写真あり)

- ・幼虫さんは何を食べるっけ？→根っこ！いっぱい入れよう！
 - ・食べるかな、
 - ・幼虫いた！小さいね、
- (全体的に成長は見られず、数は減っているように感じた。)
- ・いっぱい食べてね。と声かけする子が多かった

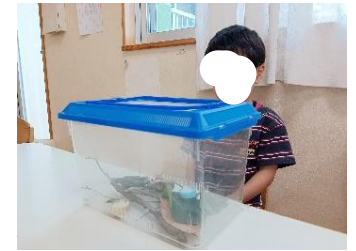


■振り返り・気づき

飼育が始まり、一か月が経った。虫が苦手だった子が触れるようになったり、お散歩中に生き物を見つける頻度が増えたように感じる。

虫を見つけると、「これなんだろう？」「何を食べるのかな？」など、お友達や保育者に知らせに行く姿があった。

疑問に思った植物や昆虫は、撮影したり、持って帰って図鑑などで調べることもあった。朝の活動中は、年少～年長の合同保育になっているため、異年齢の触れ合いがあり、他クラスでも昆虫に興味を持つ場面も多く見られた。



No. 4

8月1日～8月8日

◎主な活動

幼虫のマット交換、霧吹き、
カブトムシのマット交換、エサやり、
カマキリの水交換、霧吹き、バッタなどえさやり、フンの掃除



8月4日

幼虫の虫かごに、足の長い羽の生えた成虫を発見。

「先生これ見て…」不思議そうな顔をして持ってきてくれる。

・羽があるね、トンボかな？刺すかな、(恐る恐るな様子)

↓

本調べてみよう！

★どんな虫かな→足が長い、茶色い、細い、大きい

羽の模様など観察して、“ガガンボ”の種類であることがわかった。



8月7日の朝、亡くなっていた。

- ・足が揃ってるね、
- ・動かないね
- ・出られなかったから、死んじゃったのかな、
- ・ご飯がなかったね、

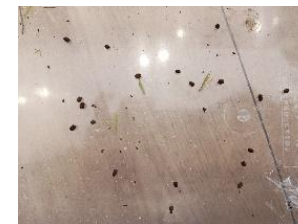
その後、数人で園庭の花壇でお別れをした。



8月12日

◎年長さんと一緒にカマキリの観察

- ・カマキリのうんちは丸いんだね。
- ・バッタのうんちは丸いけど長いね。
- ・お水飲むんだね。
- ・飲むなら、おしっこはする？★調べてみようか！→どうやって調べよう？図鑑を見る。カマキリをずっとみてる。グーグルは？カマキリひっくり返す？



(具体的な疑問や、調べ方など、自ら考えて発言する姿が多く見られた)

8月18日

◎カマキリが脱皮不全で羽が広がらず、歩行困難になる。みんなに説明をする。



◎アリの巣の想像画

「瞑想」…体を小さくして、アリのへ行ってみよう！
準備したもの→地中を表現した画用紙、クレパス、
電気を消し、お腹に手をあて、目をつむる。

★みんなの体が小さくなるよ

★何が見えるかな→真っ暗だ、★ライトをつけよう(電気のひもを引く動作)

- ・ミミズがいた
- ・アリに噛まれないように気を付けて！
- ・卵の部屋だ
- ・丸くなってるダンゴムシ
- ・ほかのアリがいた
- ・女王アリがお化粧してるよ



その後、画用紙を配りお絵描きスタート。

想像のままにどんどん絵描いていく子供たち。自分の生活とリンクさせ

お風呂やトイレ、おもちゃの部屋、アリの保育園を描く子ども。虹色の

幼虫(友達)など、個性あふれるアリの巣ができた。



8月25日 アリの巣キット

「アリの巣の想像画」のお話をして、キットの説明をする。

みんなで、準備、組み立てを行う。



☆アリを捕まえに行った時のエピソード☆

…滑り台の下に、雨の雫のような窪みを見つける。

- ・Y君 ここにたくさんアリの巣があるよ
- ・数人の子 どこどこ！本当だ～！！
- ・Kちゃん これはアリの巣じゃないよ
- ・Y君 え～そうかなあ、
- ・Kちゃん アリの巣はこうだよ、穴が開いてるでしょ
- ・Y君 ほんとだ～！！



→翌日にはかなり掘っていた

- ・道ができてるよ！
- ・アリさん、運んでるね、
- ・いっぱい歩いてる～！



すくわく
コーナー



8月29日 幼虫が成虫になる。

幼虫の土を交換しているときに、小さなコガネムシのような虫を発見。

- ・なんかいる！かわいいね、小さいね→すぐにスコープに入れる
- ・ふさふさしたのが付いてる(スコープ使用)
- ・茶色と緑色だね(スコープ使用)
- ・どこから来たの？と不思議そうな子が多く、虫かごにいた幼虫だとわかると驚いていた。図鑑で調べたところ「コアオハナムグリ」と判明。(蛹の姿は確認できなかったが、幼虫から成虫に姿を変えることに驚きと発見。どうやって変わるの？と図鑑で探求する姿がみられた。)



■振り返り・気づき

カマキリが脱皮不全になってしまい、多くの子どもたちが残念がったり、「これからどうなっちゃうの」と心配したりする姿があった。子どもたちが、バッタをカマキリの口元にそっと運び、食べられるように介助しながら、「がんばれ」と気持ちを寄せていた。調べていく中で長く生きることは難しいと知り、「できるだけお世話しよう」という姿も見られた。園庭ではアリの巣を見つけ、アリが巣の中へ入っていく様子を見た子が「中はどうなっているんだろう」と想像をふくらませていたので、この興味を大切に、観察キットを使って巣の中の様子やアリの動きをじっくり見られるよう、活動を広げていくことにした。活動の導入として、まずは「アリの巣の中に入れてみる」イメージごっこを楽しんでみた。子どもたちはイメージした世界を次々と言葉にしながらか共有し合い、そのイメージの豊かさに改めて驚かされた。最後に、思い描いた世界をイメージ画としてアウトプットすることで、さらに創造する力が広がっていく時間となった。

